



# 緑 の 募 金 だ よ り 2018

次の100年へ

子どもたちの未来へつなごう

森林のある暮らし



今から約70年前の第二次世界大戦直後、日本の山々は荒れ、日本全国で約150万ヘクタール(千葉県の3倍)にも及ぶ荒廃した土地が広がっていました。  
 森林の荒廃により毎年のように水害や水不足などの災害が多発し、甚大な被害をもたらした国民生活に深刻な影響を与えていました。このような状況に対応するため、国民運動としての緑化の取り組みが開始されました。  
 1950年(昭和25年)には第1回植樹行事ならびに国土緑化大会が行われ、半世紀以上続く地道な植樹活動の成果が、国土の3分の2を森林が占める、現在の緑豊かな日本の姿なのです。

この豊かな森林資源を次の100年へ向けて、みんなで守り、育てていきましょう。



緑の募金

**「緑の募金」にご協力をお願いします**

春の新緑シーズン(1~5月)と秋の紅葉シーズン(9~10月)を中心に  
 家庭募金・街頭募金・職場募金・企業募金・学校募金などによって行われています。

# 緑化運動の成り立ちと発展

荒廃した国土を豊かな緑野へ「国土復興」の願いが支えた国民参加の緑化運動



滋賀県野洲市 大正元年（1912）  
土がむき出しとなった峰々が、遠くまで見渡せた立石国有林。  
植物も生物の姿もほとんど見られず、非常に荒廃した状態だった。  
写真提供：滋賀森林管理署



山梨県甲府市 昭和25年（1950）4月  
第1回「植樹行事ならびに国土緑化大会」が、「荒廃地造林」をテーマに開催。  
写真提供：山梨県 出展：「御写真帖」  
協力：（社）大日本山林会 林業文献センター



山口県防府市 大正13年（1924）  
大正13年度荒廃地復旧工事完了記念第2区。  
大雨等による土砂災害の危険を防止するため森林の復興をめざした。  
写真提供：山口県

## 1950年に始まった全国植樹祭 荒れた国土を緑の森林へ

戦後の荒廃と混乱から国土復興に立ち上がった人々が目指したのは、荒れた国土に緑を取り戻すことでした。1950年（昭和25年）1月、国中が復興に邁進する状況のなかで、国土緑化運動を一大国民運動として展開するために各界有志により「国土緑化委員会」（現在の国土緑化推進機構）が設立されました。

同年4月には、国土緑化委員会設立後初の全国植樹祭「第1回植樹行事ならびに国土緑化大会」が山梨県甲府市で、天皇皇后両陛下御臨席のもと実施されました。このときに両陛下がヒノキの苗木をお手植えになったのが、両陛下が日本の国土保全、緑化推進のために苗木を植えられた最初です。

これ以降、国土緑化推進機構と開催県の共催によって行われる全国植樹祭は、国土緑化運動の中心行事として60年以上にわたり毎年開催され、運動の拡大発展の原動力となってきました。

これら活動の結果、かつて荒廃していた日本の国土には豊かな緑が蘇り1000万ha以上の人工林資源が造成されました。今後は、こうして生まれたい森を活用しながら保全していくことが課題となっています。



第41回全国育樹祭 平成29年11月19日(日)  
「森を育てる豊かな暮らし 森が育む確かな未来」  
を大会テーマに、香川県満濃森林公園で開催。



第68回全国植樹祭 平成29年5月28日(日)  
「かがやいて 水・空・緑のハーモニー」を大会テーマに、  
富山県魚津市の魚津桃山運動公園で開催。

## 緑化運動の歩みは世の中の動きと共に 時代の動きを映すポスター

1950年(昭和25年)から、全国の小・中学生、高校生を対象とした国土緑化運動のポスターの原画と標語の募集が始まり、選ばれた作品は、翌年のポスターとして全国に配布されてきました。

応募されてきた作品には、その時代ごとの世の中の動きが映し出されています。たとえば1952年(昭和27年)のポスターに描かれた標語は「ひとり一本国土の緑化」です。戦後の荒廃した国土をひとり一人の手で蘇よみがえらせようという強い意志と力強さを感じます。

1970年代は公害問題が注目され、レジャー施設や住宅地を作るための森林伐採による国内の環境破壊も問題になり始めた時代です。1973年(昭和48年)のポスターには「よこれゆく国土に緑を愛の手を」という標語が採用されています。

1992年(平成4年)にリオデジャネイロで「地球環境サミット」が開催されてからは、地球規模での森林保全の大切さが強調されるようになり、地球温暖化をはじめとする環境への関心が高まっています。

2000年(平成12年)以降は、森林資源が年々成熟してきたのに対し、木材価格の低迷等森林・林業を取り巻く厳しい環境の中で森林の循環が進まず、その結果森林の有する機能が十分に発揮されなくなることが課題となっています。

### 1950年代



昭和27年用 福岡県宗像郡 宗像高等学校3年 浜文敏

### 1970年代



昭和48年用 宮城県仙台市立愛宕中学校2年 石垣江里

### 2010年代



平成30年用 宮崎県立佐土原高等学校3年 杉本和音

# 子どもたちの未来と森林の役割

森づくりは人づくり 子どもたちと「学び」「つくる」 未来の森林



「愉しくて少しためになる」を合言葉に、科学的に調べ五感で体験する森の健康診断。  
(岐阜県恵那市)



緑の少年団による植樹 (北海道瀬棚町)



枝打ち体験をする子ども (大分県日田市)



森林内で行う「森林教室」(愛媛県今治市)

人と自然が共生する

**持続可能な未来を創る**

現在、日本の多くの森林は、国産材需要の減少や後継者不足によって手入れが追いつかず荒れてしまっています。その結果、健全な森林が持つ生物多様性、海や河川への効能・効果の減少など森林循環の途切れから様々な問題が生まれてきました。

国土緑化推進機構は、あらためて自然と共生していた伝統的な持続可能な暮らしを見つめなおし、次世代に伝えることが必要であるとの思いのもと、様々な活動に取り組んでいます。

そのひとつが、「緑の少年団」への様々な助成事業です。緑の少年団とは、次代を担う子供たちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育てていくことを目的とした自主的な活動です。1960年(昭和35年)国土緑化推進委員会が「グリーン・スカウト」の名称で緑化を実践する少年団の結成を呼びかけたことで誕生。2017年(平成29年)1月の団体規模は、3356団体、約33万人となっています。



「森の教室」平成24年(2012)6月からスタートし、平成29年には26都道府県で170回開催、延べ17,650人が参加。

園児たちが園内で3年間育てた苗木を持ちより植樹。(秋田県男鹿市)

## 「森の教室」が子どもたちに伝える 森林を守り、育てることの意義

その他にも、次世代を担う幼稚園や保育園の子どもたちを対象に、森林が持つ役割や大切さを伝える全国巡回型の「森の教室」を主宰しています。この催しでは、森作り名人「どんぐりくん」と「森のなかま」が森の楽しさや不思議さを伝える劇を開催するほか、子どもたちはキャラバン隊と一緒にポットにどんぐりを植え、自分たちで守り育てるという体験をします。園で育てた苗木は、数年後に回収して植栽されます。

日々の生活の中でどんぐりを育てていくことで「大きくなってほしいな」「芽が出るのが楽しみ」といった気持ちや育み、その木を植えることで、より緑を身近に感じ、親しみ、森林とのつながりを深めていくためのきっかけづくりを行っています。

また、一般公募された「君たちに伝えておきたい日本の原風景 一枚の手紙」の読み聞かせも同時に行われ、この活動を通じて「森林を守り、育てることの意義」が、子どもたちから家族へ、更に地域へと広がっていくことを目指しています。

森、川、海といった自然、そして世代を超えた人と人とのつながりの大切さを知ることが、持続可能な未来作りへの第一歩と考え、次世代を担う子どもたちに、自然と共生することの大切さを伝える活動を進めています。



植樹から育樹、間伐材利用までを自分たちの手で行い、だれでも参加できる安全で楽しい持続可能な森づくりを目指す。(静岡県御殿場市)



自分たちでどんぐりから育てたウバメガシ・アラカシ・マテバシイなどを植樹する。(鹿児島市桜島)

# 震災復興を支える緑の力

緑の豊かさが心を強くする  
緑の募金が災害から立ち上がる力になる



被災した鹿島灘海岸防災林を再生させていこうと、市内4校の児童・生徒など380人あまりが参加してクロマツの植樹を行いました。(茨城県神栖市)



各地の子どもたちが育てた被災地の苗木を、震災がれきなどで築かれた「千年希望の丘」周辺に植樹しました。(宮城県岩沼市)



津波被害を受けた九十九里海岸で、学校関係者や市民の参加によって海岸林防災林づくりの植樹が行われました。(千葉県白子町)

## 人々の暮らしと生業を守る海岸林 震災の津波からの再生に向けて

日本の海岸には、砂浜に松林が広がる白砂青松と呼ばれる風光明媚な景観が多く見られます。日本の海岸線の総延長は約34000kmにわたり、海岸林の面積は164000haに上ります。実はこの海岸林の多くは先人たちが植栽し、それを代々受け継いで育て守ってきた人工林＝海岸防災林です。この人工林が、飛砂や塩害、強風、高潮から人々の暮らしと生業を守ってきました。

2011年(平成23年)3月11日に発生した東日本大震災の巨大津波により青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の6県にわたる総延長140km、3660haもの膨大な海岸林が浸水の被害を受けました。これらの海岸林は津波を完全に制御することはできませんでしたが、津波のエネルギーを減衰させ、被害を軽減したことが調査で明らかになってきました。

震災から7年を経た現在、暮らしを守る海岸防災林を再生するための事業が各地で本格的に始動しています。このような被災地域復興のために「緑の募金」が活用されています。



大学生と地元の中高生 95 名が参加して植樹しました。  
今後 5 ～ 10 年かけて下刈りの実施等を行いクロマツの生育を見守っていく。(福島県相馬市)



## 「使途限定募金」は支援メニューから 使い方を選んで募金できる制度

2011年(平成23年)の東日本大震災、  
2016年(平成28年)の熊本地震では多くの方々  
が被災し、現在もまだ復興の途上にあります。  
そんな被災地域の復興のために活用されて  
いるのが、緑の募金の「使途限定募金」です。  
これは企業や団体が、森づくり活動の支援メ  
ニューのなかから寄付金の使途を選択して、  
募金できるという制度です。これにより様々な  
復興事業が進められています。

そのひとつが被災地域にお  
ける森林整備です。市町村な  
どの計画のもと、地域の方々  
の協力を得て取り組むもので、  
今までに海岸防災林等の整備  
支援のほか、居住地域周辺や  
学校周辺に緑を取り戻すため  
の緑化活動なども進めていま  
す。木を植え緑を取り戻すこ  
とで、地域の方々の心の豊か  
さと生活への活力を支える助  
けになることを願っています。



学校や幼稚園、保育園周辺の緑化により、子供たちの共同生活の充実を図るとともに、緑の大切さや木のぬくもりを感じてもらうことを目的にサクラの木の植樹やパンジーなどの木製プランターの設置を実施。  
(熊本県阿蘇市、益城町、大津町、西原村)

仮設住宅でのグリーンカーテンの設置やベンチやテーブルセット、木製遊具等の木製品を贈呈。  
(熊本市、益城町、西原村)

# 国内外の森づくり、人づくり

「緑の募金」の活用事例 地域の人々とともに身近な緑化活動を



ヤマザクラとコナラなど 500 本を植樹。

「豊かな森があつてこそ

豊かな海が育くまれる」をテーマに

特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金（東京都千代田区）  
 「多くの人に環境保全に関心をもってほしい。そのために、私たちは多様なかたちで森林と触れあう機会やプログラムを提供しています」と古瀬繁範理事長。

そのひとつが広島県呉市安浦町での森づくりです。このあたりの三津口湾は、古くからシラウオ漁やカキ養殖がさかんな地域です。しかし、近年、マツ枯れや手入れ不足の森林が目立つようになっています。豊かな森があつてこそ豊かな海が育くまれます。

そこで、地元・中畑共有山保存会と共催で森林整備体験活動を続けています。平成30年1月21日の植樹会には、林業関係者や漁業関係者ほか上下流からの75人が参加しました。

また、当団体では、森と海のつながりを体感してもらうためにカキ養殖場を見学したり、首都圏の都市住民が森林とふれあう機会（間伐体験や獣害対策ネットの設置など）づくりも行っていきます。



カキ養殖場の見学



都市部の人の参加による間伐体験



「緑の募金保全活動」（神奈川県南足柄市）  
 針葉樹（スギ）の森の保全活動として下刈りを行いました。



「活樹祭～こども間伐体験～」(岩手県葛巻町)  
 「木を切って使うことは、豊かな森のために必要なこと」をテーマに、間伐体験を行っています。



子どもたちも参加して3年間に1万本以上を植樹。



子どもたち向けのパンフレットや絵本をつくり、学校での環境教育も実施。

## 「野生動物と人とがともに暮らす 未来の森づくり」をめざして

FC Manis マニスファンクラブ (神奈川県葉山町)

インドネシア・カリマンタンでは、アブラヤシ畑への転換や森林火災などによってオランウータンの暮らす森林が危機に瀕しています。その森林を豊かに育んでいこうと活動を続けています。学校や地元環境団体などの連携もスムーズになっています。

「森林を育てるには長い時間が必要です。現地の子どもたちに体験を通じて森の大切さややすばらしさを知ってもらい、それを家族や地域へと広げていきたい」と代表の丸山幸子さん。



「野生動物と人とがともに暮らすことのできる未来の森をつくりたい」それが地域のみなさんとマニスファンクラブの大きな目標です。



「ふるさとの森林再生事業」(兵庫県神戸市)  
無秩序に広がってきた竹林などを整備し、誰もが親しめる森林づくりをすすめました。



「地域住民と次代を担う青少年等による水源の森整備活動」(愛媛県今治市)  
シカによる食害を防ぐために子どもたちが苗木にカバーを設置しました。

# 森林を支える力、森林が支える未来



一人ひとりの小さな力が豊かな緑を支え、みんなの未来を豊かにする

美味しい水や地球温暖化抑制  
それに海の豊かさにも

## 森林の力が必要

森林は様々な役割を担い、私たちの暮らしに密接に関わっています。

たとえば、水がそうです。森林は雨水や雪どけ水を、落ち葉などが堆積した柔らかい地面に浸透させてろ過し、その過程でさまざまな養分を溶かし込み、川にきれいな水を安定的に供給しています。これが私たちの暮らしに欠かせない水道水となって家庭に届きます。

また森林の多様な生態系は海にまで影響を及ぼしています。なぜなら、森林の腐植土によって作り出された鉄イオンを含んだ水が、河川の植物性プランクトンの増殖を助け、それが川や海に暮らす生き物の食物連鎖の始まりになっているからです。

また現在人類が直面している地球温暖化の問題も、樹木は二酸化炭素を吸収し酸素を放出することで温暖化を抑制しています。

このように我々の生活はさまざまな所で森林に支えられています。「緑の募金」は、このような大切な森林を次の世代に引き継ぐためのさまざまな取り組みを行っています。



現在の東京・数寄屋橋付近での募金活動の様子。



昭和25年(1920)4月1日、東京・数寄屋橋前での募金活動の様子。  
写真提供：(社)国土緑化推進機構  
出典：「国土緑化運動50年」

「緑の羽根募金」から  
「緑の募金」へ

# 日々の生活の中での「緑の募金」 参加へのさまざまな方法

あなたの家に眠っている物品（お宝）で  
森林づくりの支援ができます！



**あなたの家に眠っている「お宝」で**  
家庭に眠っている物品（お宝）を受け入れ、査定額が募金となる。  
提供：お宝エイド®



## コンビニやスーパーのレジ横で

レジの横に「緑の募金」へ協力をする募金箱が置かれている。  
日常の買い物の際のお釣りなどを入れやす。

写真提供：株式会社ファミリーマート  
株式会社ローソン



## 自動販売機で

緑の募金のマーク付き自動販売機は、販売額に応じて一定割合が募金にあてられる。

写真提供：ダイドードリンコ株式会社



## 寄付金付き商品で

寄付金付き商品を購入すると、その販売価格の一部が募金にあてられる。食品、衣料品、家電製品、出版物、日用品など協賛商品は多岐にわたる。

写真提供：江崎グリコ株式会社



## カード類で

クレジットカードの利用ポイント、クオ・カードの購入額の一部が募金となる。

写真提供：JXTGエネルギー株式会社  
株式会社クオカード

# 一人ひとりの力を豊かな未来の森林へ 多様化する募金の方法

一人ひとりが森林を自分たちの共通財産と考え、それぞれの立場で森づくりに参加できるようにとの考えのもと、1950年（昭和25年）に「緑の羽根募金」はスタートしました。

この募金活動は、急激に実績を伸ばし、初年に2200万円だった募金額は、1988年（昭和63年）には9億5000万円に上りました。その後ボランティア元年と言われた1995年（平成7年）には「国民参加の森林づくり」を地球規模で進めるため「緑の募金」による森林整備等の推進に関する法律」を制定し、名称が「緑の募金」に変わりました。

現在は年に2回の街頭募金だけでなく、スーパーやコンビニのレジ横の募金箱、寄付金付き商品や自動販売機、インターネット募金、クレジットカードの利用額やポイント、クオカードの購入金額の一部が募金になったり、さらには、家庭で眠っている「お宝」による物品寄附の仕組みなど、時代と共に募金の方法も多様化しています。

## 平成30年春期イベント情報

- 2月~4月 ..... 「緑の募金」AM ラジオ・全国キャンペーン
- 3月24日 ..... 国際森林デー 2018 みどりの地球を未来へ（東京「木材・合板博物館」）
- 4月15日~5月14日 ..... みどりの月間「全国一斉強調月間」
- 4月29日・30日 ..... 「ニッポン放送・ラジオパーク 2018 IN 日比谷」出展（東京・日比谷公園）
- 5月12日・13日 ..... 第28回森と花の祭典「みどりの感謝祭」（東京・日比谷公園）
- 6月10日 ..... 第69回全国植樹祭ふくしま 2018（福島県南相馬市）

このほか、各都道府県にて緑化に関わる多くのイベントが開催されます。お住まいの都道府県緑化推進委員会のホームページ等をご覧ください、緑化活動並びに緑化イベントに、ぜひご参加ください。

## 「平成30年緑の募金ポスター」

元気な森の保全・育成のためには、成長した木を使うことが重要です。育った木を上手に使い、新たな木を植えることで森は若返りを図ります。森を元気に育てて次の世代に、みんなであつないでいくことを「緑の募金」と一緒に進めていきましょう。



